

国際的人材育成のための多言語・多文化理解ワークショップの展開

グローバル・エンゲージメントセンター
 旧 国際教育交流センターアドバイジング部門
柴 垣 史

留学生を主な対象とした多言語・多文化理解（日本文化、世界の言語・文化講座）ワークショップは、全学の留学生が日本をより深く理解し、一般学生たちと共に言語や文化についての知識と感性を育み、さらにそこから異文化コミュニケーション力や、多文化適応力といった国際性を伸ばすことで、本学がめざす国際的人材育成に貢献することを目的としている。新型コロナウイルス感染症の拡大による授業のオンライン化を契機に、新しいスタイルのワークショップ開発も目指し、国内外在籍留学生の共修、交流を、より多様に充実させることを目的とした。

事業の実施状況とその成果は以下の通りである。

【事業実施概要】

当初の目的に従い、日本文化、世界の言語・文化をテーマとした講座をオンラインで開催した。昨年度同様、対面による講座開催ができなかったため、新しいスタイルのワークショップ開発は、対面、オンライン双方での参加が可能となるハイブリッド型を想定し、短期日本語受入れプログラム及び全学教養科目への協力講座の中で実践を繰り返した。書道講座では、使用するビデオ教材を作成し、今後の利用展開のためにビデオ用英語訳を準備した。また日本文化講座（折り紙、書道）では、講座内容と関係のある学内の折り紙サークルと書道部の学生達に活動の様子を聞き取り、講座内で紹介し、受講者と一般学生が新たな学びや交流の場を見出せるよう、ハード面、ソフト面においてその環境整備につとめた。さらに言語においては、学内の各留学生組織の協力を得て、留学生講師による「言語を通じて文化に触れるワークショップ」を開催し、留学生、一般学生、学内スタッフ及び地域の人々との共修による交流を充実させた。

【講座実施状況】

日本文化講座

- 折り紙から見る日本文化（7/27 受講生12名）夏季 NUSTEP 協力講座 講義担当：アドバイジング部門 柴垣 史，監修協力：折り紙国際交流白ゆり会
- 書道（11/1 受講生26名（うち14名留学生））全学教養科目「留学生と日本」への協力講座講師：藤井書道教室 藤井尚美
- 日本の伝統衣装・着物（2/7 受講生9名）春季 NUSTEP 協力講座 講義担当：NPO 法人ひとつなぎ駒 加藤かつ子

世界の言語・文化（言語を通じて文化に触れるオンラインワークショップ）

- ロシア語・ロシア文化（11/24, 12/1, 12/8 参加登録者12名：留学生3名，一般学生4名，スタッフ5名）講師：レショワ・アンナ（名古屋大学 大学院情報学研究生）
- タイ語・タイ文化（2/24, 2/25 参加登録者11名：留学生2名，一般学生5名，地域1名，スタッフ3名）講師：チャロエンシルプ・ピンマダ（名古屋大学 大学院国際開発研究科生）

【事業の成果と今後の展望】

昨年度から取り組んでいる講座開発では、オンラインによる短期日本語プログラム（NUSTEP）と全学教養科目への協力講座において、講師らの“動き”を伴う指導実習をできるだけ取り入れられるよう、動画撮影に必要な機器を揃え、その効果的な使い方を複数のスタッフで繰り返しの実践から学んだ。この経験から得た知識は、今後、ハイブリッド形式を含むワークショップ等の企画、開催に役立つものと考えている。そして講座の講師らも、オンライン上で出来ることを見極めながら講義内容を工夫したり、次世代への継承を意識し、新たな人材育成を始めたこともあり、講座の持続的な開発と発展が大いに期待ができる。また講座内で使用する書道のビデオ教材を作成したことで、オンライン講座後の復習はもちろん、講座外でも日本文化体験を

したい留学生、日本文化を紹介したい学生などの補助ツールとしても活用の幅が広がるものとなった。

日本文化講座に関連した学内の2つの学生団体（折り紙サークルと書道部）の部活動の様子を講座内で紹介することを目的に、団体のメンバーに聞き取りを行ったが、同時に交流を求める留学生について知ってもらうことで、メンバーが課外活動での多様な交流の可能性に気付く機会となった。

学内の留学生組織の呼びかけ協力により、講師となってくれた留学生の母語を初級レベルで学ぶ講座をオンラインにて開催した。高いスキルを持って母語や自国の文化を日本語で発信する留学生講師の姿勢と、受講者の積極的な参加姿勢により、双方が様々な刺激を受

け、挑戦に対して自信を持つ機会となった。そしてこの機会は、言語、文化の学習にとどまらず、新たな交流や興味への原点の一つとなっていることを期待したい。

新型コロナウイルス感染による影響からの2年間、オンラインによる講義、講座、イベント開催が常となり、物理的な距離の軽減といったメリットはあるものの、“オンライン疲れ”といった心理的デメリットも少なからず経験した。今後のポスト・コロナへの移行期においては、また、講義やイベントの開催スタイルが新たに変化することであろう。今後の共修や交流においても、様々な変化に対する柔軟な思考力と機動力、あらゆる他者との知識や経験の共有をもって、国際的人材の育成に寄与することが大切である。



【参考1：夏季 NUSTEP 協力講座】



【参考2：書道ビデオ 基本線の書き方】



【参考3：“言語を通じて文化に触れる” オンラインワークショップ】

